



書いた字を榊田さんに朱墨で直してもらい、それをお手本に何度も練習しました。

1月7日、大成中学校体育館で、新春書初め大会が行われました。小学校1年生から一般まで幅広い年代の14名が参加し、榊田昌好さん(大成区宮野)の指導のもと、それぞれの力作が完成しました。今年のお題は「へび」、「お正月」、「深い友情」などでしたが、中にはカタカナで気持ちを表現するなど、皆さん思い思いの言葉を書いていました。参加者にお話を聞くと、「4月から6年生になるので、初めての体験をしてみたいと思って参加しました。」「毎年書初めをするとやっぱりお正月の気分がします。」など、いろいろな思いを胸に、新たな1年の始まりを筆に込めていたようです。



作品は2月中旬まで大成図書館で展示しています。どうぞ見に来てくださいね。



書初めとは、吉書、試筆、初硯などともいい、年が明けて初めて書や絵を書くことで、昔は、あらたまった気持ちで筆をとり、若水ですつたすずりで恵方に向かつておめでたい詩句を書いたと伝えられています。書き上がった書初めは、しばらく部屋などに掲げ、自分への戒めとして常に目を向けており、どんど焼きで火に投じ、紙が高く燃え上がるほど字がうまくなるなどと言われています。しかし、現代はパソコンが日常化しており、年頭に「書初め」をして字が上手になるのを願うことも少なくなっているかもしれませんね。このように、ひとつひとつの物事にも大切な意味が込められており、由来を知るとなるほどと思うことが多くあります。



編集後記

▼さあ、新しい年がスタートです。早いですがね。きつと皆さんも同じように感じていないでしょうか。▼新年明けての第1号。ちよつと気の利いたごあいさつを：なにとカッコつけて考えていました。編集後記までたどり着いた今、ただ毎日早いし、言葉が出てこないのです。▼この編集後記に関しては、何を書くのがふさわしいのか、必要なのか、毎回考えます。しかし、こは一発、今年第1号の広報誌の発行。再び奮起し、決めゼリフでスタートするぜい、と考えたあげく、言いたかったことは、「広報せたなをいつも読んでいただきありがとうございます。取材等に際していただいている町民の皆さんに心から感謝しています。」の言葉につきました。▼新しいこの1年、皆さんが健康に過ごし、楽しいதாகたくさんありますように。▼今年もよろしくお願ひしつね。(編集)

